

**京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書**

平成24年 4月27日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・職名 京都大学渉外部長

氏 名 河 野 忠 男

助成の種類	<b>平成 23 年度 ・ 社会連携助成</b>			
事業名	京都大学春秋講義及び市民講座の開催			
実施期間	春秋講義(春季) 平成23年4月11日、18日、25日、5月11日、18日、25日 春秋講義(秋季) 平成23年10月3日、17日、24日、11月2日、16日、30日 市民講座 平成24年2月11日、18日			
実施場所	京都大学時計台記念館百周年記念ホール、船井哲良記念講堂、宇治おうばくプラザきはだホール			
参加者	総数 2,864名	内 訳 春秋講義 2,072名 市民講座 792名		
成果の概要	「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )			
会 計 報 告	事業に要した経費総額	2,982,260円		
	うち当財団からの助成額	2,000,000円		
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 京都大学大学運営費、財団法人阪本奨学会		
	経費の内訳と助成金の使途について			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	印刷製本費	961,800	961,800	
	通信運搬費	388,584	388,584	
	旅費・謝金	375,060	0	
	広告・宣伝費	549,935	549,935	
	施設使用料	607,200	0	
消耗品等	99,681	99,681		
合 計	2,982,260	2,000,000		

## 成 果 の 概 要

渉外部長 河野 忠男

### 【京都大学春秋講義及び市民講座の実施状況について】

「京都大学春秋講義（春季・秋季）」は、「京都大学教育研究振興財団」の後援を得て、京都大学における学術研究活動の中で培われてきた知的資産について、広く学内外の人々との共有を図ることを目的として昭和63年度より春季及び秋季の2回、京都大学の教員による連続講義（月曜講義、水曜講義）の形態で開催しているものである。

春季、秋季いずれも「月曜講義」は共通のメインテーマを設け、各講師の企画・構成により行い、「水曜講義」は共通テーマを設けず、各講師が時宜を得たテーマにより行っている。

春季の「月曜講義」では、「おもて」を共通のメインテーマに「イマジナリーキューブのおもてとら」「レヴィナスの「顔」－倫理と他者の現れ」及び「東アジアの表と裏」について3名の講師が講義を行い、「水曜講義」では、「日本・東アジアとヨーロッパ人口問題から考える」「資産価格バブルについて」及び「地球温暖化防止の環境経済戦略」について3名の講師が講義を行った。

また、秋季の「月曜講義」では、「少子高齢化」を共通のメインテーマに「きらめく超高齢社会に向かって」「雇用と社会保障の関係」及び「生涯学習社会を生きる－「江戸」からの視点」について3名の講師が講義を行い、「水曜講義」では、「将来型エネルギーシステム」「木材を超えた木材－集成材の魅力とその実力」及び「東北地方太平洋沖地震による全国の津波災害について」について3名の講師が講義を行った。各講義終了後には質疑応答の時間を設けており、活発な質問が行われた。

春季講義には「月曜講義」3回、「水曜講義」3回の6回で延べ977名、秋季講義には「月曜講義」3回、「水曜講義」3回の6回で延べ1,095名、合計2,072名の参加者があり、1回当たりの開催について173名の参加者があった。

「京都大学市民講座」は、本学の学術研究の一端を広く社会一般に公開し、社会人の教養と文化の向上に役立つことを目的に開催しているものである。「若手研究者からの発信」をメインテーマに2月の土曜日に2週連続で1日2講座を実施した。1日目は「「社会性」という視点から心の病気について考える」及び「シソの香りでリラックス？－食べるだけじゃないシソのお話」について2名の講師が、2日目は「事業生態系（エコシステム）の経営学」及び「ロシアの第一次世界大戦」について2名の講師が講義を行った。1日目は延べ563名、2日目は延べ229名、2日間で合計792名の参加者があった。

参加者の意見聴取については、毎回講義終了後にアンケートを実施し、講義テーマや講師の選定、講演会場の設定等今後の企画に生かしている。

また、広報についても、講義テーマ、開催場所によってポスター等の送付先を工夫するなど広く市民に周知するよう努めている。